

補修対象設備

ESP

Fig.5.1-1



**状況**

- (1) JICA無償援助でESPの補修(植打装置、植打モータ更新、ホッパー下部灰エア移送装置改修)を実施後、一定の集塵効率を維持して運転している。
- (2) 補修部品の手配ができない場合 1,2,3区の補修に4区の部品を使用している。
- (3) ESPの煙道や灰処理設備からの灰リークが発生している。

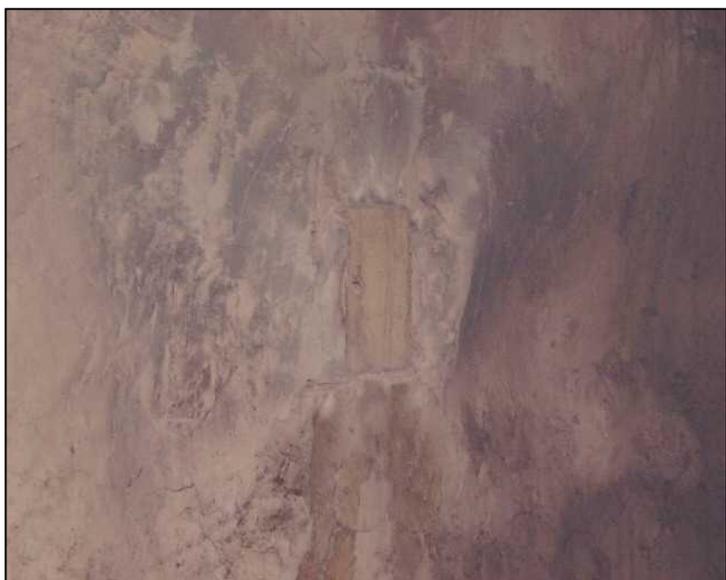
**対策**

煙道や灰処理設備のリーク部分の補修を実施する。

補修対象設備

ボイラーストブロー

Fig.5.1-2



**状況**

- (1) ボイラには当初100台/缶設置されていたが、灰が炉壁に付着しにくいバガヌール炭を多く燃焼していた時期に使用されずに撤去された。
- (2) 今後価格の安いシバオポー炭の使用量が多くなると予想されるが、バガヌール炭に比べて灰が炉壁に付着しやすい。

**対策**

- (1) 2炭種は同一炭田に属し基本性質は同じであり、シバオポー炭も表層から深部へ掘削が進めば灰性状の改善が期待できる。
- (2) 燃焼状態や灰性状の変化を確認しながらストブローの要否を検討する。

**状況**

- (1) 補助蒸気起動用減温減圧装置は、 $140 \text{ kg/cm}^2 / 555 \text{ }^\circ\text{C}$ の蒸気を $16 \text{ kg/cm}^2 / 250 \text{ }^\circ\text{C}$ に減温減圧しているが、故障が多くメーカーによるオーバーホールを2年に一度実施している。
- (2) 補助蒸気起動用減温減圧装置は、蒸気リークや調整弁のスティック等の不具合が多発している。

**対策**

補助蒸気起動用減温減圧装置は、タービン起動前に補助蒸気ヘッダを活かす非常に重要な装置であるため、圧力調整弁、温度調整弁、圧力発信器、圧力指示計、温度発信器、温度指示計、流量発信器、流量指示計、制御装置を一式交換し、信頼性の向上を図る。

**状況**

- (1) 補助蒸気減温減圧装置は、オーバーホールを4年に一度実施しているが傷みがひどく蒸気リークや調整弁のスティックが多発している。

**対策**

補助蒸気減温減圧装置は、タービン停止時(タービン抽気から補助蒸気の供給が出来ない場合)に補助蒸気ヘッダ圧力を維持する重要な装置であるため、圧力調整弁、温度調整弁、圧力発信器、圧力指示計、温度発信器、温度指示計、流量発信器、流量指示計、制御装置を一式交換し、信頼性向上を図る。